進路指導だより

秋田県立秋田きらり支援学校
第４号
平成２８年　９月　６日発行

学力日本一の特別支援学校

校　長　　小林　俊昭

間もなく発表されますが、全国学力・学習状況調査では、秋田県の小・中学生の学力は昨年まで８年連続、全国トップクラスです。実は秋田県の特別支援学校も日本一なのです。

平成２７年３月に特別支援学校高等部を卒業した生徒の一般企業への就労率は、秋田県が４１．３％で全国第１位です。第２位は千葉県の３８．１％、３位は東京都と栃木県の３７．５％です。全国平均が２８．８％で、４０％を越えているのは秋田県だけです。

特別支援学校卒業生の進路先は企業の他、大学、専門学校、就労を目指した訓練機関や作業所、生活訓練施設など様々な形態があります。企業就労率が高ければいいという単純なものではありませんが、秋田県では就労希望の生徒ほぼ１００％が希望を達成しています。これはとてもすばらしいことです。

では、秋田県の特別支援学校卒業生が高い就労率を達成しているのはなぜでしょう？

職場開拓員や進路指導担当者による実習先・進路先の開拓、技能競技会の開催、作業製品の品質向上、作業学習の工夫……。これらの取組はほとんどの都道府県で行われています。一方、職業的な知識・技能の習得に特化した高等特別支援学校が他の都道府県にはありますが、秋田県にはありません。

この辺がポイントです。陥りがちな間違いは、障害のある生徒に職業的な知識や技術さえ身に付けさせれば就職できるという考え方です。知識や技術だけでは、高等学校や専門学校、大学で学ぶ生徒には対抗できません。

特別支援教育の強みは点数で表される教科等の学習の学力ではなく、良心に従って善悪を判断する力や生涯を通じて学び続ける意欲・態度など広い意味の学力です。さらに、周りの人と仲良くすること、真面目さや他の人に尽くす気持ちなど、生活する力、働く力を大切に育てていくのが特別支援教育です。

昨年の８月、札幌で開催された全国の知的障害教育校長研究会のシンポジウムでは、秋田県の特別支援学校の就労率を支えるこのような取組や考え方を発表させていただきました。

職員研修会

職員を対象とした進路に関する研修をご紹介します。

本校では、夏季休業中に本校職員を対象とした職員研修を行っています。今回は事業所の施設環境や事業内容の理解、児童生徒の進路について知見を広めることを目的として、事業所見学を行いました。見学させていただいたのは、「自立支援センターほのぼの」と「障がい福祉サポートセンター聖和」です。施設の特徴などを丁寧に説明していただき、児童生徒の進路についてとても参考になりました。今後の教育活動に大いに生かしていきたいと考えております。

見学した職員の声　＊ほのぼの＊

作業種が豊富で、得意なことを生かし黙々と作業に臨む利用者の姿が印象的で、事業所の理念にあるように「利用者の意思と人格・特徴が尊重」されていることがうかがえました。やりがいをもって仕事をし、日々の生活を充実させることができているように感じました。

小学部　畑美貴子

見学した職員の声　＊聖和＊

学校卒業後も療育に対して保護者のニーズが高いことを知ることができました。また、それに応えようとしている施設の姿勢を強く感じました。入浴や食事など日常生活の介助の他に、生きがいや楽しみを大切にし、利用者の生活が充実するようにサポートされていました。

養護教諭　吉田智子

同窓会総会、成人を祝う会

８月６日（土）かがやきの丘大会議室にて、同窓会総会と成人を祝う会が行われました。同窓生２６名、ご家族２３名、旧職員３名、本校職員３０名の計８２名が参加しました。同窓会総会では活動計画や会計、会則の改正について話し合われました。

成人を祝う会では、成人を迎える平成２６年度卒業の１４名のうち９名が参加し、同窓会からの記念品が贈られました。成人者やそのご家族からのスピーチでは、支えてくれた方たちへの感謝の気持ちや無事この日を迎えられた喜び、また今後の抱負などが力強く語られました。久しぶりに会うみなさんと近況報告をしあい、学校時代の懐かしい思い出を語り合って楽しい時間を過ごしました。

成人者記念撮影

会食の様子

成人者スピーチ

記念品の贈呈

総会の様子